

## 宝福則子特認名誉教授略歴

- 昭和 22 年 12 月 小樽市で誕生
- 昭和 53 年 6 月 フィリップス大学マールブルク（ドイツ連邦共和国）社会科学・哲学部卒業
- 昭和 57 年 8 月 フィリップス大学マールブルク社会科学・哲学部修士課程修了
- 昭和 57 年 8 月 修士（社会学，フィリップス大学）
- 平成 2 年 4 月 小樽商科大学短期大学部助教授
- 平成 3 年 10 月 小樽商科大学商学部助教授
- 平成 8 年 3 月～平成 9 年 9 月 ドイツ連邦共和国カッセル総合大学客員  
研究員（文部省海外研究開発動向調査及び日本学術振興会  
特定国派遣研究者として）
- 平成 10 年 10 月 小樽商科大学商学部教授
- 平成 23 年 3 月 定年退職
- 平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月 特任教授

## 宝福則子特認名誉教授研究業績表

2013年12月15日

### 学術研究書 単著

*Arbeiterbewegung in Japan - Aufschwung in der Nachkriegsperiode 1945-1952*,  
Verlag Arbeiterbewegung und Gesellschaftswissenschaften, Marburg/Lahn, 1984,  
150頁。

### 共著

『人間社会と環境』高橋・宝福・宮本・山本共著 執筆分担3・3, 3・4 (69-90頁),  
三共出版, 2002

### 学術論文 単著：

1. "Zur Agrarreform Perus von 1969", 北海学園大学『学園論集』第45号1983年7月, 53-81頁
2. "Zu Problemen zur Entwicklung der japanischen Arbeiterbewegung in der Nachkriegsperiode (1945-1952), Internationale Tagung der Historiker der Arbeiterbewegung, 21. Linzer Konferenz 1985, Europa Verlag / Wien 1986, 316-323頁
3. 「インタビュー資料の分析——『1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活』を手がかりに」岩手大学人文社会学部『テキスト分析の研究——日・独テキストの対照研究を中心に』昭和62年度科学研究費補助金(総合研究A)研究報告書, 1988年3月, 103-116頁
4. 「ペルー革命的軍事政府による工業化とその挫折——ヴェラスコの実験」小樽商科大学『人文研究』第83輯, 1992年3月, 373-401頁
5. 「アマゾンの熱帯林破壊について」小樽商科大学『人文研究』第88輯, 1994年8月, 213-236頁
6. 「日常生活史——A氏の場合」小樽商科大学『人文研究』第91輯, 1996年3月, 315-333頁
7. 「ドイツの環境政策——循環型経済・廃棄物法をめぐって」小樽商科大学『商学討究』第48巻第4号1998年3月, 87-113頁
8. 「ドイツの環境政策——循環型経済・廃棄物法をめぐって(その2)」小樽商科大学『商学討究』第49巻第1号1998年7月, 71-90頁
9. 「エクアドルの石油採掘——環境破壊とインディオ先住民族」小樽商科大学『人文研

- 究』第96輯，1998年3月，263-282頁
10. 「ドイツの環境政策——循環型経済・廃棄物法をめぐる（その3）」小樽商科大学『商学討究』第49巻第2・3合併号 1998年12月，57-72頁
  11. 「日常生活史——B女の場合：1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活」（その二）小樽商科大学『人文研究』97輯，1999年3月，243-272頁
  12. 「日常生活史——C氏の場合：1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活」（その三）小樽商科大学『人文研究』第98輯，1999年8月，157-186頁
  13. 「日常生活史——D氏の場合：1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活」（その四）小樽商科大学『人文研究』第99輯，2000年3月，167-190頁
  14. 「日常生活史——E女の場合：1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活」（その五）小樽商科大学『人文研究』第101輯，2001年3月，195-225頁
  15. 「日常生活史——F氏の場合：1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活」（その六）小樽商科大学『人文研究』第103輯，2002年3月，227-270頁
  16. 「日常生活史——G氏の場合：1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活」（その七）小樽商科大学『人文研究』第105輯，2003年3月，177-215頁
  17. 「日常生活史——H氏の場合：1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活」（その八）小樽商科大学『人文研究』第107輯，2004年3月，107-154頁
  18. 「日常生活史——I氏の場合：1900年から1993年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活」（その九）小樽商科大学『人文研究』第108輯，2004年9月，77-103頁
  19. 「日常生活史——J氏の場合：1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活」（その十）小樽商科大学『人文研究』第113輯，2007年3月，119-136頁
  20. 「日常生活史——K氏の場合：1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活」（その十一）小樽商科大学『人文研究』第114輯，2007年9月，65-96頁
  21. 「日常生活史——L氏の場合：1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活」（その十二）小樽商科大学『人文研究』第119輯，2010年3月，175-213頁
  22. 「日常生活史——M氏の場合：1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活」（その十三）小樽商科大学『人文研究』第121輯，2011年9月，113-159頁
  23. 「日常生活史——N女の場合：1900年から1933年までのブラウンシュヴァイクにおける労働者の日常生活」（その十四）小樽商科大学『人文研究』第123輯，2010年3月，169-189頁
  24. 「ドイツの社会保障制度の特徴と『アジェンダ2010』下の現況」『北海道自治研究』第510号 2011/7月

## 翻訳 単著

1. R. Zoll 編著『現代ドイツ労働者の意識』— 資料「経済危機における労働者の意識」北海学園大学学術研究会『学園論集』第 47 号
2. D. Boris 著『中米ニカラグア』— 資料「1979 年の革命勝利まで」北海学園大学学術研究会『学園論集』第 50 号
3. D. Boris 著『中米ニカラグア, その二』— 資料「新自由ニカラグア」北海学園大学学術研究会『学園論集』第 51 号

## 翻訳 共著

W. Abendroth/F. Deppe/K. Fritzsche/G. Fülberth/G. Meyer 著 (共訳者 橋本剛)  
“*Friedensbewegung und Arbeiterbewegung - Wolfgang Abendroth im Gespräch*” 「平和運動と労働運動 — アーベントロートとの対話 (1982 年, マールブルク)」『北海学園大学学園論集』第 63 号